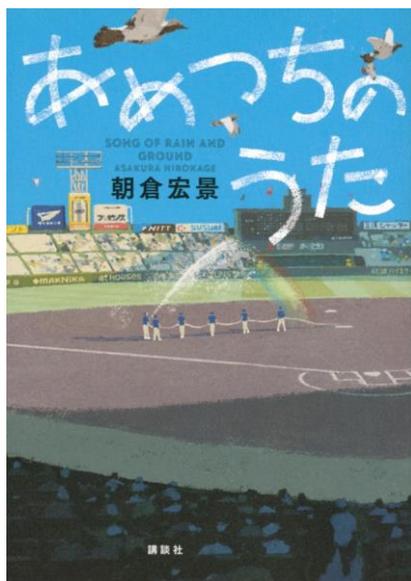


こんな本を読んできました



タイトル あめつちのうた
著者 朝倉 宏景
出版 講談社 2020年

東京の高校を卒業後、甲子園球場のグラウンド整備業務を請け負っている阪神園芸株式会社に入社した雨宮大地。希望のグラウンドキーパーに配属され、仕事に向き合い、周囲と関わることで、親への葛藤や弟への嫉妬を乗り越え成長していきます。

普段何気なく目にしている、実際はどんなことをやっているのか知らなかったグラウンド作りの一年間を知ることができます。天候を読み、土の状態を見極め、雨が降れば手際よく水たまりをきれいに一掃し、試合開始までこぎつける甲子園球場を支えるプロの仕事。甲子園のグラウンドのあの美しさは日々の努力によって生み出されていると感じました。グラウンド整備も野球観戦の楽しみの一つになりそうです。

呉市と関わりのある作家や事柄の所蔵資料を紹介します。

郷土資料



タイトル 幻の黒船カレーを追え
著者 水野 仁輔
出版 小学館 2017年

日本に初めて伝わったカレーの味を想像したことはありますか？ 安泰のサラリーマンの身分を捨て、国内はおろか好奇心を武器に海外に飛び立ち、カレーのルーツの謎に迫った人物がいました。

その人物こそ、紹介する本の著者でカレー研究者として活躍中の水野仁輔さんです。著者の魅力はなんといっても抜群の行動力！ 文献や推測だけに頼らず、あちこちに赴いて本物に出会うことで、惜しみなく五感を駆使して真実を掴もうと奮闘します。

喜びと落胆、驚きと発見の連続をくぐり抜けた先に、果たして幻の黒船カレーは待っているのでしょうか。縁あって著者はカレーとゆかりの深い呉にも訪れています。甘辛いスパイスとロマンに充ちた旅に、読者は思わず引き込まれます。